

【資料2】

大阪市の結核2017（抜粋）



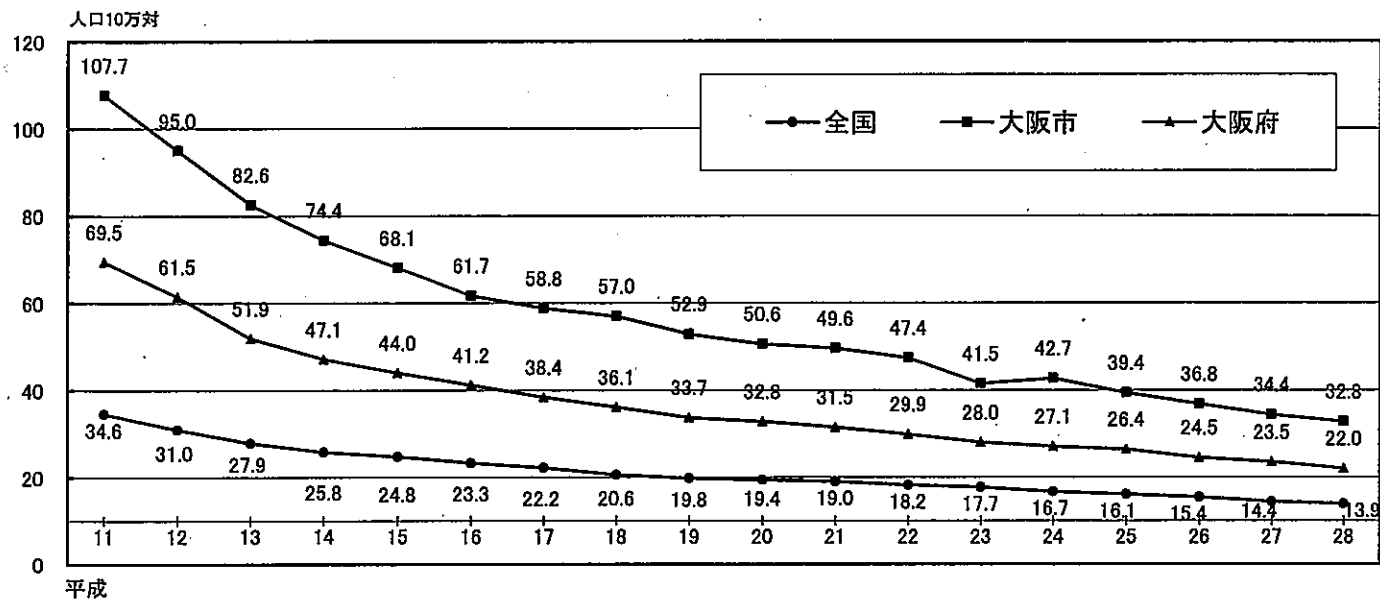
大阪市の結核 2 0 1 7

平成 2 8 年結核登録者情報調査年報集計結果速報（抜粋）

- 1 結核発生動向
- 2 患者発見
- 3 結核医療
- 4 コホート分析による治療評価
- 5 接触者健診
- 6 予防

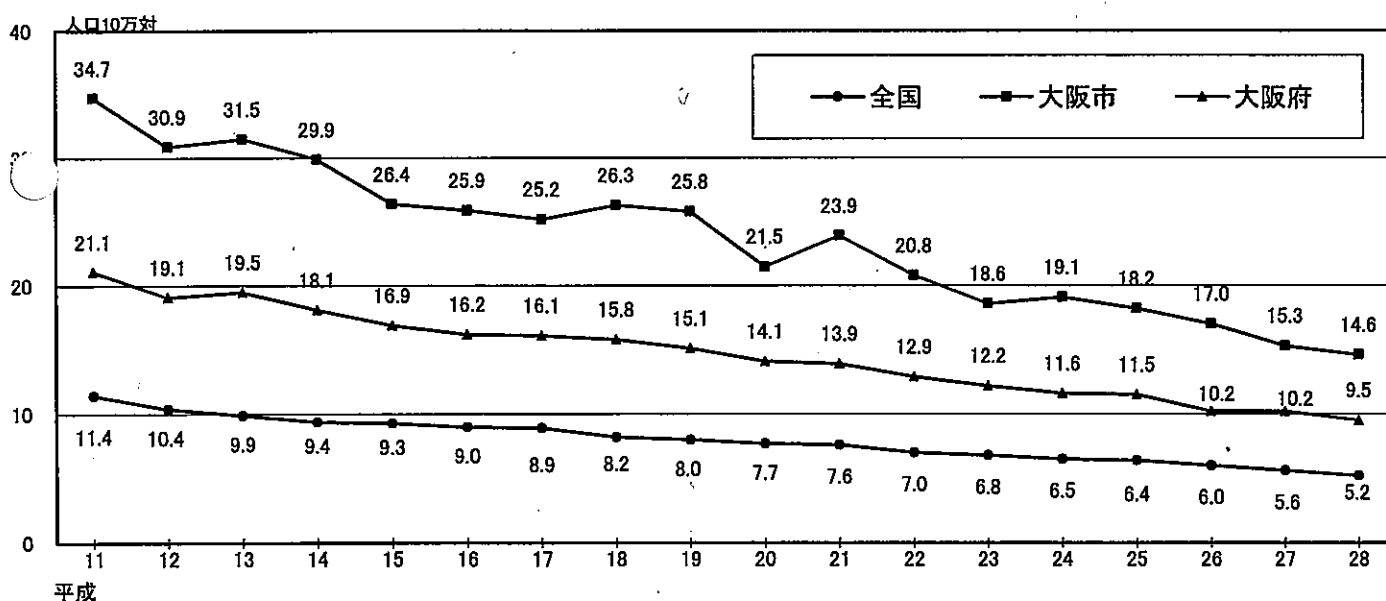


1 結核罹患率の推移 平成11年～平成28年



○ 全国の結核罹患率は、平成11年の34.6から年々低下し、平成28年は13.9であり、減少率は59.8%であった。一方大阪市の罹患率は、平成11年107.7から平成28年32.8であり、減少率は69.5%であった。平成27～28年は、全国で3.5%、大阪市で4.7%の減少率であった。

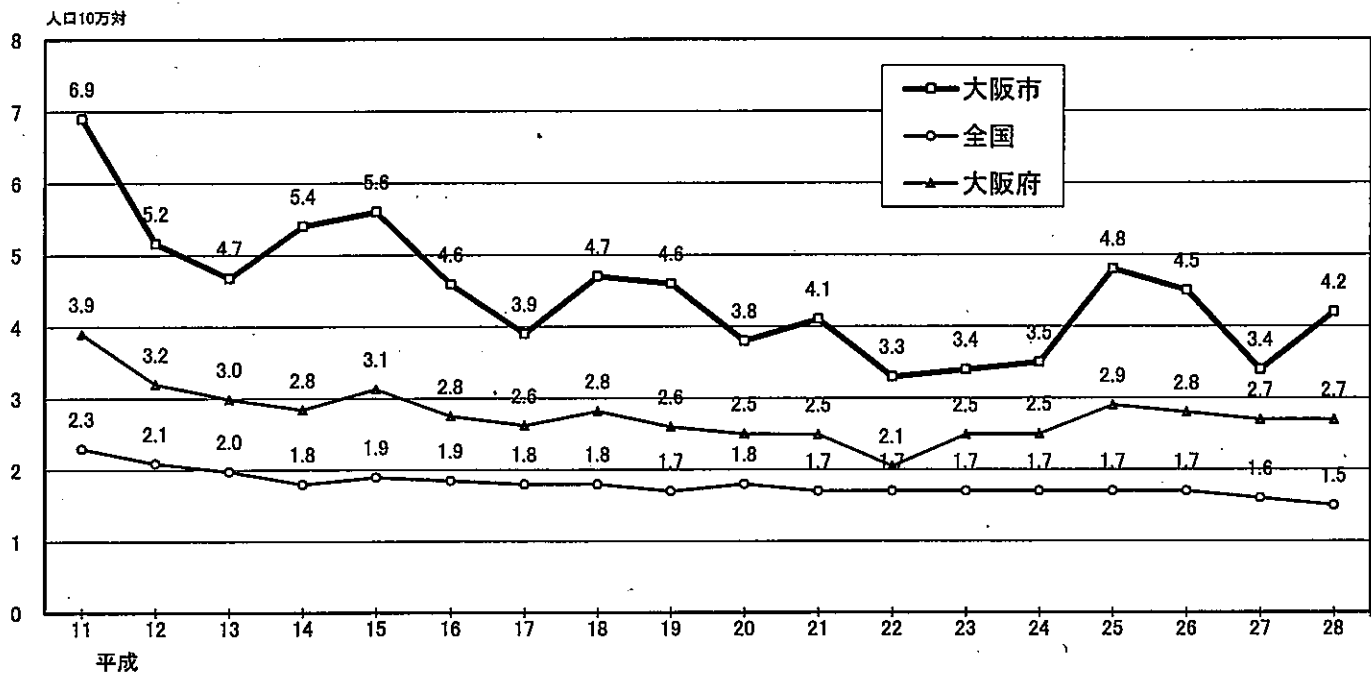
2 喀痰塗抹陽性肺結核患者罹患率の推移 平成11年～平成28年



○ 喀痰塗抹陽性肺結核患者の罹患率は、全国では平成11年11.4から平成28年5.2まで低下し、その間の減少率は54.4%であった。

一方大阪府は、平成11年34.7から平成28年14.6まで低下しており、減少率は57.9%であった。

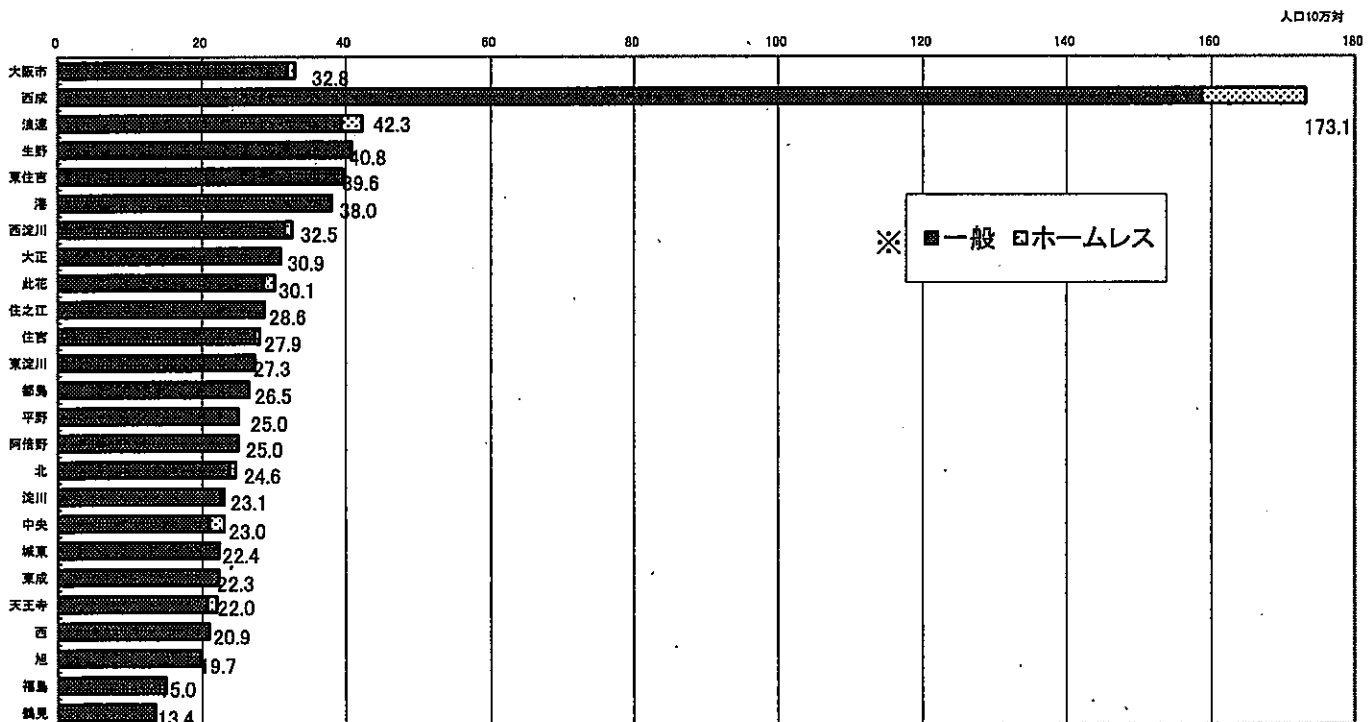
3 結核死亡率の推移 平成11年～平成28年



○ 死亡率は、全国は平成11年2.3から平成28年1.5に低下しており、平成26年までの6年間は横ばいであったが、平成27年以降は低下傾向がみられ、平成28年は、平成11年以降で最も低かった。一方大阪市は平成11年6.9であったのが、平成28年4.2と低下していたが、平成27年に比べると上昇しており、全国の2.8倍であった。同年の大阪市の全結核罹患率は全国の2.4倍であったことより、平成28年は大阪市は全国より死亡率が高い可能性が示唆された。

4 区別 結核罹患率（一般・ホームレス）平成28年

〔 年末時の所在地で集計
他市転出者は転出前の所在地で集計 〕



○ 24区別の罹患率では、平成28年西成区173.1と最も高かったが、昨年の179.6よりは低下していた。次いで浪速区が42.3と高かった。

※ 一般・ホームレスは年末時の分類と居住地で計上。ホームレス患者は登録時で平成28年37名（西成区25名、西成区以外12名）であったが、年末時では21名（西成区16名、西成区以外5名）であった。減少した16名（西成区9名、西成区以外7名）は、ホームレス対策として実施した支援により居宅に移行した患者であり、年末時では各居住区の一般に計上されている。

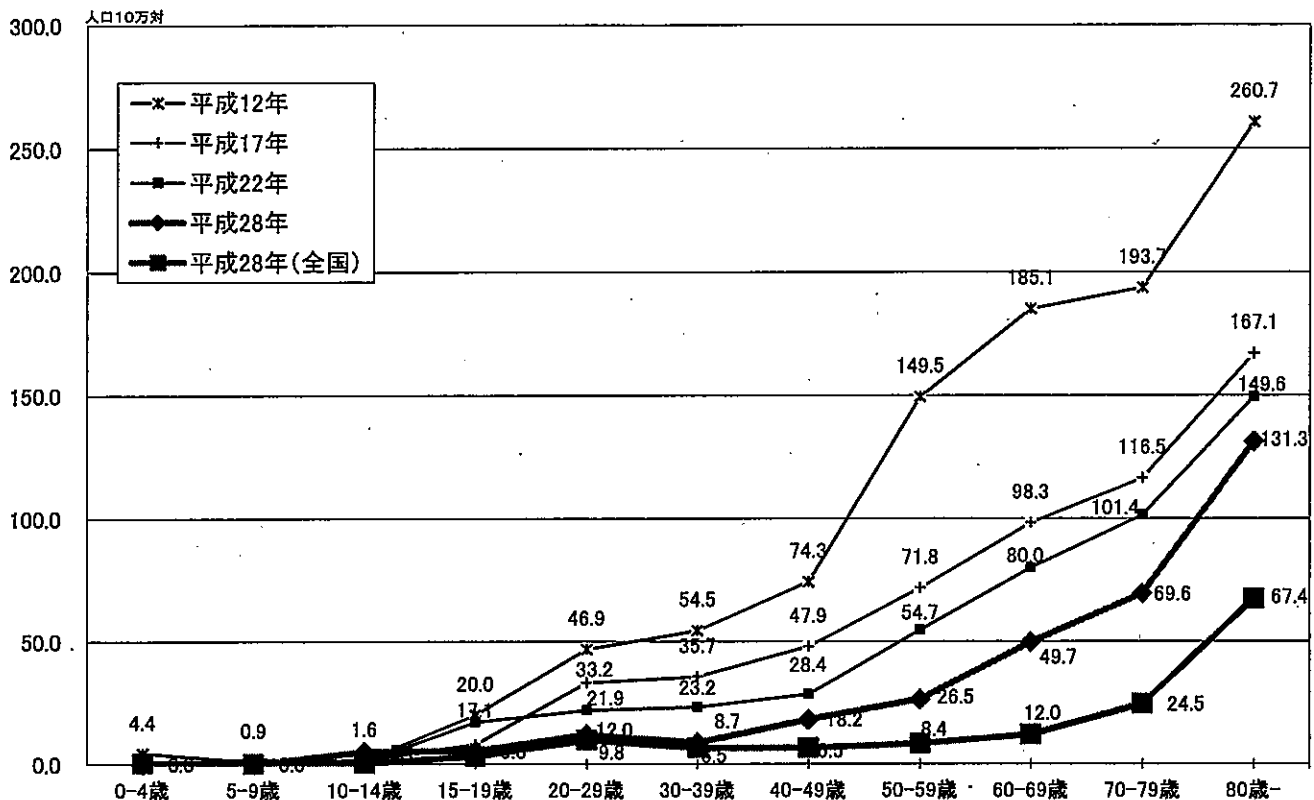
5 結核新登録患者数・罹患率（平成28年）

	H28.10.1現在 推計人口 (人)	新登録 患者数 (人)	結核罹患率 (人 口10万対)	喀痰塗抹陽性肺 結核患者数 (人)	喀痰塗抹陽性肺結核罹 患率 (人口10万対)
大 阪 市	2,702,033	887	32.8	394	14.6
北	125,983	31	24.6	12	9.5
都 島	105,779	28	26.5	8	7.6
福 島	73,352	11	15.0	3	4.1
此 花	66,421	20	30.1	8	12.0
中 央	95,457	22	23.0	9	9.4
西	95,522	20	20.9	5	5.2
港	81,551	31	38.0	17	20.8
大 正	64,672	20	30.9	5	7.7
天 王 寺	77,290	17	22.0	4	5.2
浪 速	71,001	30	42.3	16	22.5
西 淀 川	95,374	31	32.5	13	13.6
淀 川	177,868	41	23.1	24	13.5
東 淀 川	175,631	48	27.3	21	12.0
東 成	80,733	18	22.3	14	17.3
生 野	129,838	53	40.8	22	16.9
旭	91,458	18	19.7	11	12.0
城 東	165,360	37	22.4	16	9.7
鶴 見	111,575	15	13.4	7	6.3
阿 倍 野	108,193	27	25.0	16	14.8
住 之 江	122,195	35	28.6	19	15.5
住 吉	153,869	43	27.9	14	9.1
東 住 吉	126,231	50	39.6	18	14.3
平 野	195,755	49	25.0	21	10.7
西 成	110,925	192	173.1	91	82.0

6 一般・ホームレス別結核新登録患者数・罹患率（平成28年）

	新登録患者数 (人) ※年末時集計			罹患率 (人口10万対)		登録時 ホームレス数
	一般	ホームレス	全体	一般のみ	計	
大 阪 市	861	26	887	31.9	32.8	37
北	30	1	31	23.8	24.6	1
都 島	28		28	26.5	26.5	
福 島	11		11	15.0	15.0	
此 花	19	1	20	28.6	30.1	1
中 央	20	2	22	21.0	23.0	3
西	20		20	20.9	20.9	
港	31		31	38.0	38.0	1
大 正	20		20	30.9	30.9	
天 王 寺	16	1	17	20.7	22.0	
浪 速	28	2	30	39.4	42.3	3
西 淀 川	30	1	31	31.5	32.5	
淀 川	40	1	41	22.5	23.1	1
東 淀 川	48		48	27.3	27.3	
東 成	18		18	22.3	22.3	
生 野	53		53	40.8	40.8	
旭	18		18	19.7	19.7	1
城 東	37		37	22.4	22.4	1
鶴 見	15		15	13.4	13.4	
阿 倍 野	27		27	25.0	25.0	
住 之 江	35		35	28.6	28.6	
住 吉	42	1	43	27.3	27.9	
東 住 吉	50		50	39.6	39.6	
平 野	49		49	25.0	25.0	
西 成	176	16	192	158.7	173.1	25

7 年齢階級別全結核罹患率の推移



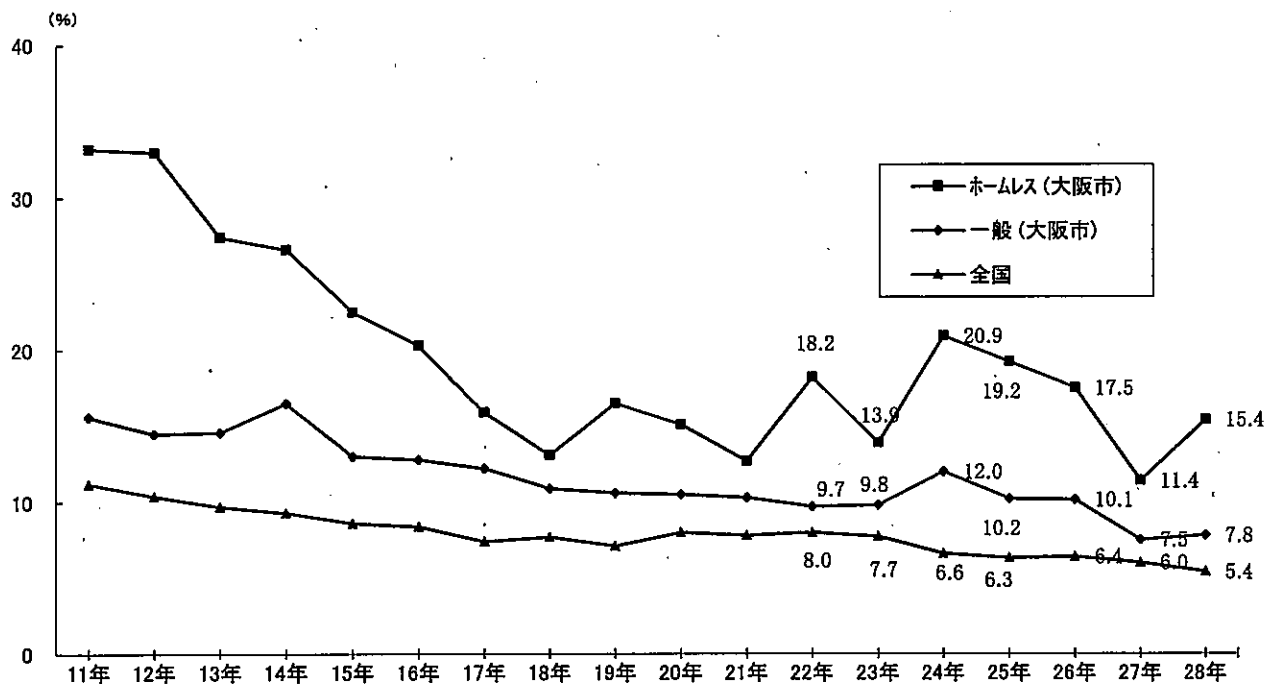
- 平成22年から28年にかけて、15歳以上の各年代の罹患率の減少率は、80代以上を除いて30%を超えていた。60代以上より罹患率40を超えており、80代以上の罹患率が131.3と最も高かった。全国と比較すると、特に50代、60代の罹患率が高く、それぞれ3.2倍と4.1倍であった。

8 小児結核患者数の推移

年齢	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
0～4歳	1	1	0	1	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	1	1	2	0	4
計	1	2	1	3	0	4

- 平成23年から平成27年にかけては、平成27年の0例を除き、毎年1～3例の小児結核患者の登録があったが、平成28年は4例登録があり平成23年以降最も多くなっていた。平成27年以降、9歳以下の結核はなかった。

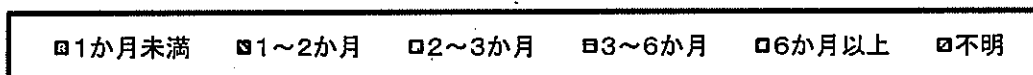
9 一般・ホームレス別肺結核患者再治療割合の推移



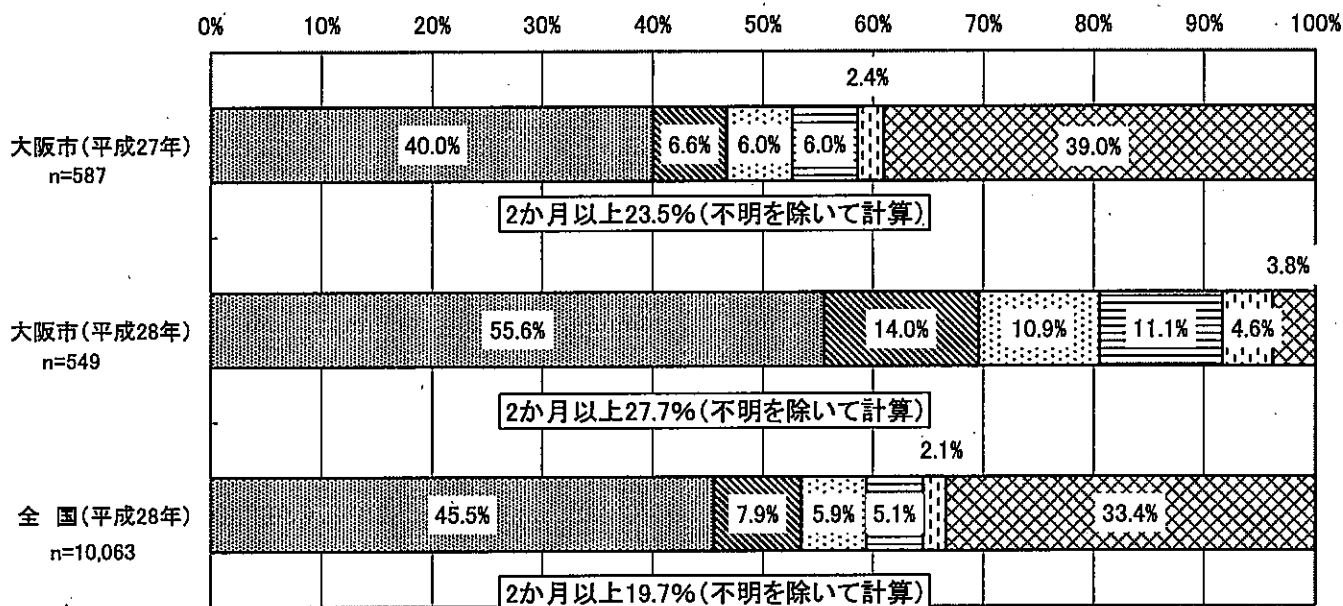
○ 平成28年は、27年に比べ一般は7.5%から7.8%へ、ホームレスは11.4%から15.4%へといずれも増加した。

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
ホームレス(大阪市)	9/43	10/52	7/40	4/35	4/26
一般(大阪市)	110/918	89/874	82/808	58/774	58/744
全国	1,091/16,432	1,013/15,972	968/15,149	851/14,123	735/13,608

1 有症状肺結核患者における発見の遅れ（平成27・28年）

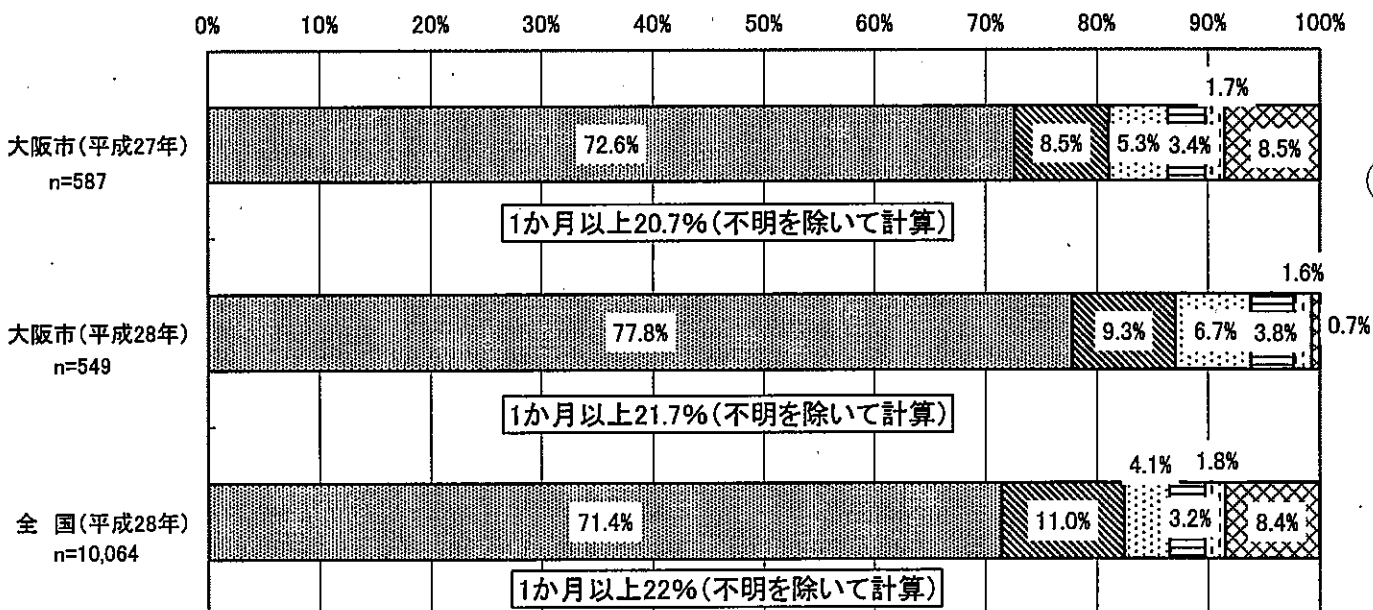


（1）発病から初診までの期間



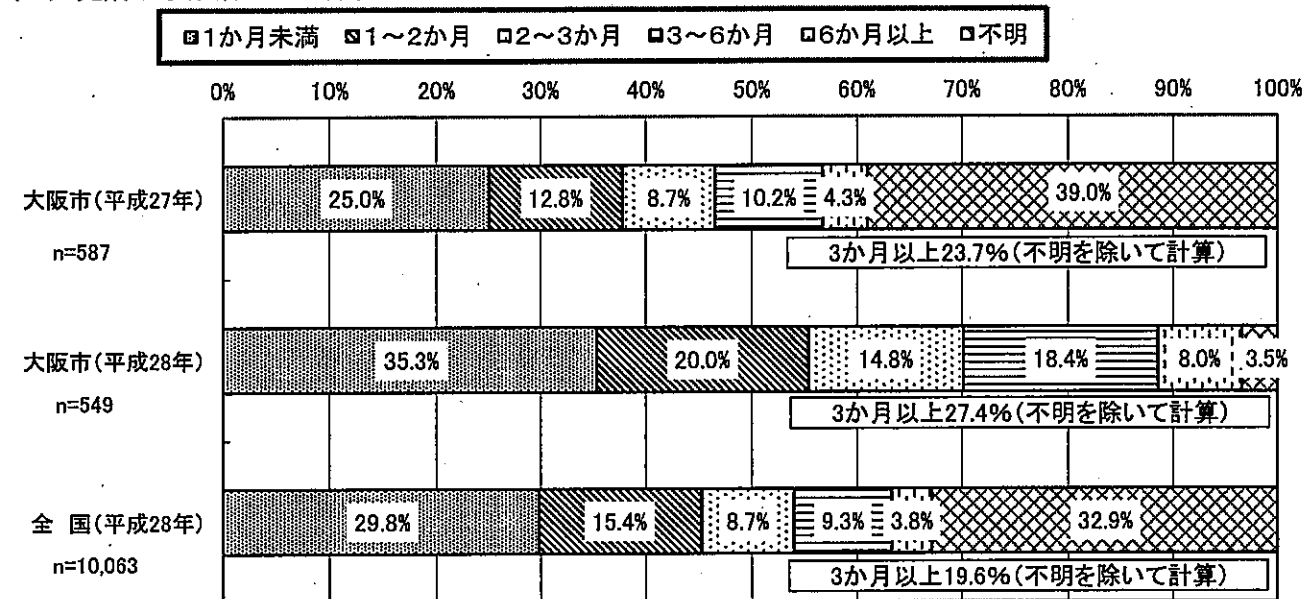
○ 不明を除く大阪市の受診の遅れ(期間が2か月以上)の割合は、平成28年27.7%であり、平成27年23.5%より増加していた。全国は19.7%であり、大阪市は全国より受診の遅れのある割合が高かった。また、大阪市の不明割合について、平成27年39.0%より平成28年3.8%と大幅に減少しているが、システム入力が徹底されたためである。

（2）初診から診断までの期間



○ 不明を除く大阪市の診断の遅れ(期間が1か月以上)の割合は、平成28年21.7%であり、平成27年20.7%と比べ増加していた。全国は22.0%であり、大阪市は全国より診断の遅れのある割合が低かった。

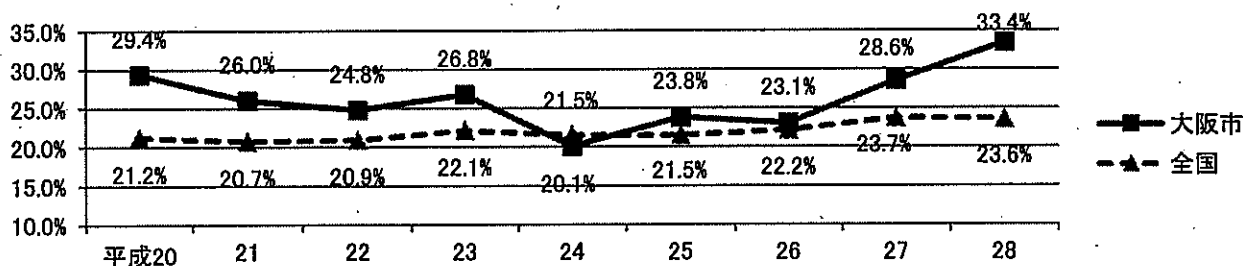
(3) 発病から診断までの期間



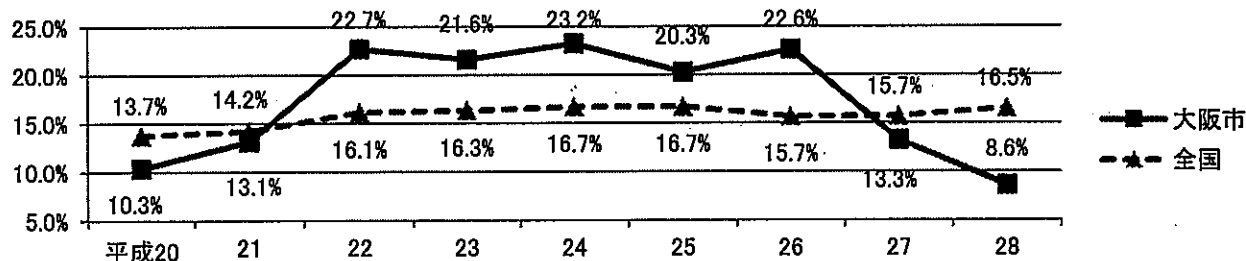
○ 不明を除く大阪市の発見の遅れ(期間が3か月以上)の割合は、平成28年27.4%であり、平成27年23.7%と比べ増加していた。全国は19.6%であり、大阪市は全国より発見の遅れのある割合が高かった。また、大阪市の不明割合について、平成27年39.0%より平成28年3.5%と大幅に減少しているが、システム入力が徹底されたためである。

(4) 有症状肺結核患者(喀痰塗抹陽性)における受診・診断・発見の遅れの推移(不明除く)

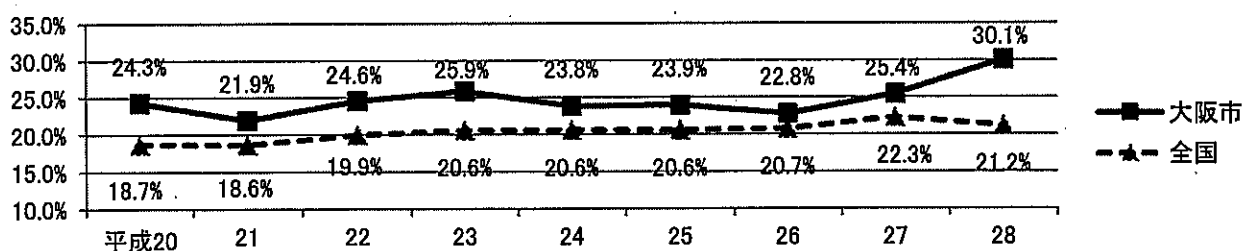
【受診の遅れ】



【診断の遅れ】

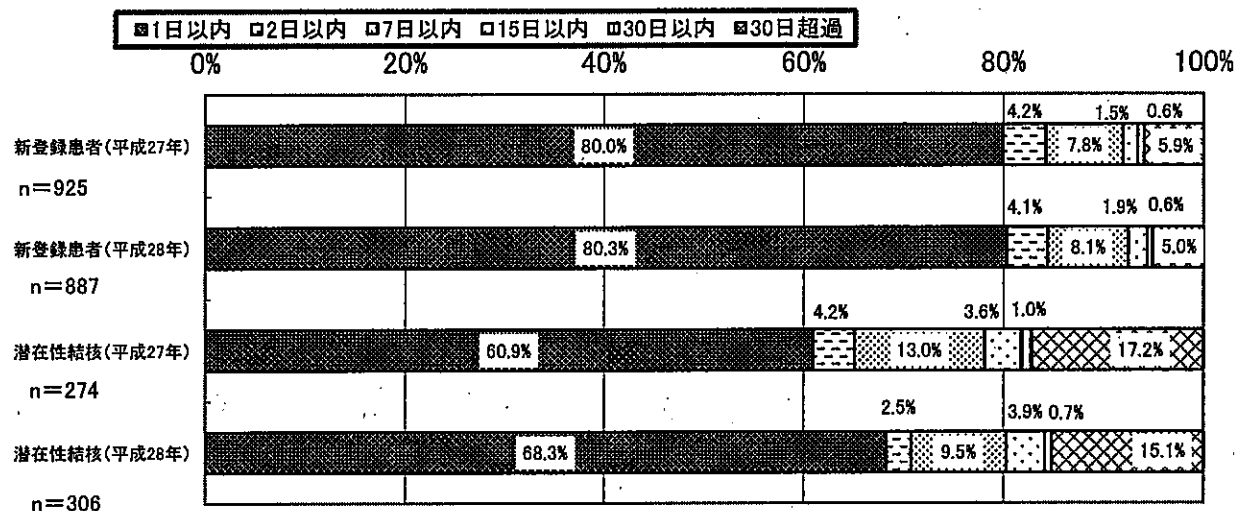


【発見の遅れ】



○ 有症状塗抹陽性肺結核では、受診の遅れは平成27年28.6%から28年33.4%へと増加し、全国の23.6%を上回っていた。一方診断の遅れは平成27年以降全国より低く、平成28年は8.6%であった。

2 発生届までの期間（平成27・28年）



- 新登録患者の発生届が1日以内に提出されていたのは、平成27年80.0%から平成28年80.3%へと改善していた。一方潜在性結核患者では、平成27年60.9%から平成28年68.3%へと改善していた。

3 結核健診における患者発見および健康教育（平成28年度）

（1）管理健診、定期・住民健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率 (%)	備考
管理健診	378	0	0.00	結核登録者に対して、結核の予防または医療上必要が認められるときに行う健診
定期・住民健診	5,651	4	0.07	特定健診やがん検診に併設及び各区保健福祉センター等にて実施している結核健診

（2）リスクグループへの健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率 (%)	備考
分館健診	3,554	22	0.62	西成区保健福祉センター分館にて実施している結核健診
あいりん健診	2,331	11	0.47	あいりん地域における検診車を利用した健診
高齢者に対する健診※	262	1	0.38	老人福祉センター利用者を対象とした結核健診
外国人に対する健診※	4,227	4	0.09	日本語学校に所属する外国人に対する結核健診（専修学校等は2年次以降の学生に対して、他の学校については入学時健診を含む）

※平成23年4月より実施

- リスクグループへの健診における患者発見率は、分館健診が最も高く0.62%、次いであいりん健診0.47%、高齢者に対する健診0.38%であり、外国人に対する健診は0.09%であった。

（3）健康教育（平成28年度）

対象別	施設数(か所)	参加者数(人)	備考
住民一般	109	7389	区保健福祉センター実施 BCG他
あいりん	34	734	あいりん地域において実施
外国人関係	16	94	日本語学校教員、技能実習生に対して実施 他医療通訳研修
高齢者関係	27	664	地域包括支援センター管理者会、居宅介護事業者連絡会、老人福祉センター、介護保険関連施設等に対して実施
医療従事者	43	640	疫学調査時他医療機関に対して実施 医療機関講習会（年4回、231人）含む
その他	20	285	結核発生のあった学校、事業所、施設等 他PTA
合計	249	9806	